

ファンタジーステイン工法

【コンクリート表面の準備】

良い仕上げには既設の表面の下準備が極めて重要です。

新規に打設したコンクリートは10日以上14日間ぐらい完全に乾燥の養生期間を取って下さい。その後軽く希塩酸で洗浄した後、洗い流せば十分です。

古いコンクリートは表面の汚れ（油、グリース、泥等）はコンクリートクリーナーを使って落としますが、希釈の場合は汚れの程度によります。同時に希塩酸で軽く洗浄し、粒子の間をふさいでいるセメントカルシウムを完全に落としてください。カビが生えている場合は、カビ落としを使います。コンクリートの表面が塗料で着色してある場合は、洗浄する前に塗料剥離剤かコンクリートグラインダーで削り取ります。

ひどく傷んでいる場合は下塗り用の材料で全面補修しておくといいでしょう。補修した箇所は砥石で、ざらざらを滑らかにしておきます。

ひび割れは適切な修理方法で直しますが、コンクリートが古いと必ずしもうまく修理できません。修理した箇所にクラックが入らないように、全体にエキスパンション・ジョイント（伸縮目地）を多めに切り込んでおくといいでしょう。既設のコンクリートに何らかのかたちで手を加えると、ステインの仕上がり面に影響を与える可能性があることは承知しておいてください。ステインはペンキのような全面塗装をする商品と違い、半透明でコンクリート表面に染みを着ける工法なのでコンクリート下地面がもろに現れますので気を付けて下さい。

【ステイン仕上げ】

1、アシッドステイン仕上げの場合

通常アシッドステインを原液～5倍の範囲で希釈しますが、塗る素材の吸い込み具合や設計者の希望の色を事前に打合せ、サンプルを作ることをお勧めします。色の倍率をあらかじめ決定しておく事が大事です。

その場合、現場の下地と同じ条件で作成しなければなりません。

塗布後数日間には色の変化がある為サンプルより薄いからといって多めにかけ過ぎない様に十分注意してください。

使用する容器やポンプは金属の物は避けポリ製の物をお使いください。

吸い込みが少ない磨きのコンクリートには塗布後デッキブラシで擦り付けて下さい。翌々日表面に残った残留物を洗い流し浸透した色を残します。



2、ウォーターベースアクリルステインの場合

塗る素材の吸い込み具合や設計者の希望の色を事前に打合せ、サンプルを作ることをお勧めします。色の倍率をあらかじめ決定しておく事が大事です。

ウォーターベースアクリルステイン（プロライン）の希釈は **原液～3倍**に薄めて、コンクリートやモルタル下地にハケ、ローラー、スプレーなどで塗布して下さい。塗布後デッキブラシで延ばしたり擦り付けたりして色合いに変化を付けます。表面の凹に液が溜まった箇所は濃いムラに仕上がります。

翌々日表面に残った残留物を洗い流し浸透した色を残します。アシッドステインの様に散布後の色の変化はありませんので、塗布後の色が仕上がりの色と思って下さい。

【シーリング】ステイン塗布後2日後に施工

シーリングの前にステインの残留物を洗い流し、乾燥後にシーリングをして下さい。

1、溶剤系硬質アクリルシーラーの場合（標準仕様）

洗浄又はブラッシング後、表面の乾燥残留物を清掃した後、シーリングを行います。

下塗シーラー（＃2000）を1回塗り、乾燥を待って上塗りシーラー（＃3200）を再度1回～2回塗ります。

その場合のシーラーは別途仕様書の用途に合わせたものを塗って下さい。

シーラーはできるだけ縦横に万遍なく薄く塗ってください。温暖あるいは暑い場所ではシーラーを1回で厚く塗ろうとすると表面に泡を生じる原因となります。

湿気がある場合や冷たいコンクリートをシールしてはいけません。気温の高い日は、一日のうちで最も涼しい時にシーリングしてください。シーラーは柔らかいはけ・専用ブラシかローラー、またはエアレススプレーガンで塗布してください。

アシッドステインはシーリング後にも1週間ぐらいは色の変化が有りますのでご注意ください

シーラーは用途に合わせて各種用意しています。

硬質アクリル溶剤シーラー	（外部標準仕様 溶剤の強い臭い）
硬質アクリル水性シーラー	（室内標準仕様 無臭）
硬質ウレタンシーラー	（室内の光沢床 溶剤の強い臭い）高価
水性エポキシシーラー	（室内の光沢床 無臭）高価
溶剤エポキシシーラー	（室内の光沢床 溶剤の強い臭い）高価

